

経営概況説明会

- **VISION 2030** 01
- 事業の概況(2023年度セグメント実績) 02
- 各事業の2030年のありたい姿 03
 - (1) 医療化学品事業
 - (2) 電子材料事業
 - (3) エネルギー材料事業
 - (4) 素材化学品事業
 - (5) 肥料事業
 - (6) ガラス事業
 - (7) ガラス繊維事業
- 研究開発の取組み 04
 - (1) 主な研究開発製品
 - (2) 研究開発トピックス
 - ① エッチングガス ② SiCウェハ ③ 回路パターン倒れ防止剤
- 人的資本経営の推進 05
- 環境課題の対応 06
- 株主還元 07

- **VISION 2030** 01
- 事業の概況(2023年度セグメント実績)
- 各事業の2030年のありたい姿
- 研究開発の取組み
- 人的資本経営の推進
- 環境課題の対応
- 株主還元

VISION 2030

ありたい姿

サステナブルな社会の実現に寄与する 「スペシャリティ・マテリアルズ・カンパニー」になる

数値目標

200億円 ROE 10%以上

(過去最高益)

事業戦略

スペシャリティ製品の拡大

- 新たな価値創造
- ビジネスモデルの創造

エッセンシャル製品の強化

- ・ 収益力の強化
- 高付加価値化

ポートフォリオの最適化

人的資本経営の推進

- ・ ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進
- エンゲージメントの向上
- ・ 健康経営の推進

環境課題の対応

- GHG削減への取組み
- 循環型社会の実現への取組み
- ・ 環境負荷低減への取組み

デジタル活用の推進

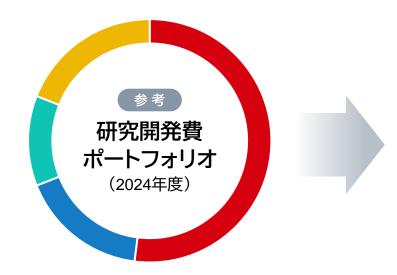
- オペレーションの効率化
- 経営基盤の高度化
- DXに向けたデジタル人材育成

ESG経営による事業基盤強化

11 VISION 2030

「事業戦略」について

- ■スペシャリティ製品の拡大
 - 新たな価値の創造(研究開発・独創的発想)
 - 強いビジネスモデルの創造



- ■エッセンシャル製品の強化
 - 収益力の強化
 - 高付加価値化

新たな価値創造ターゲット

半導体・ パワー半導体分野

バッテリー分野

ライフサイエンス分野

くらし・環境・食糧分野

エッセンシャル 製品分野

スペシャリティ製品 3つの優位性

技術優位性

知的財産等の独自の 技術を持つ製品

独創性

ユニークかつ強固なビジネス モデルを確立した製品

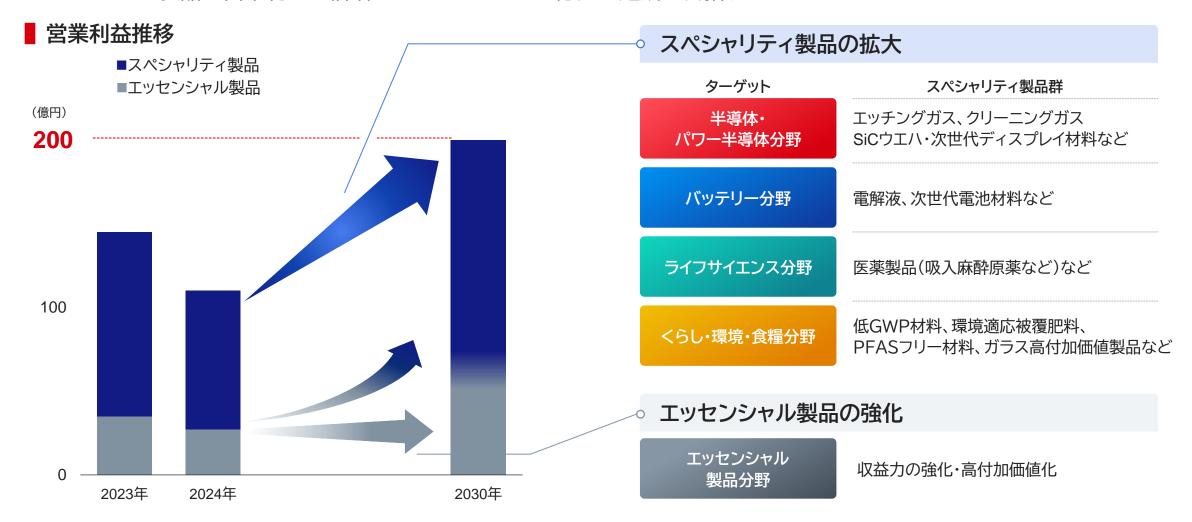
サステナビリティ

社会・環境課題に 貢献する製品

1 VISION 2030

営業利益目標200億円のロードマップ

スペシャリティ製品の営業利益を倍増させることで、200億円の達成を目指す



- 01 VISION 2030
- **事業の概況**(2023年度セグメント実績)
- 03 各事業の2030年のありたい姿
- 04 研究開発の取組み
- 05 人的資本経営の推進
- 06 環境課題の対応
- 07 株主還元

2 事業の概況(2023年度セグメント別実績)

祖業であるソーダ事業からガラス事業へ進出したのち、更なる事業領域の拡大を経て、現在は半導体関連を含む化成品事業の収益が拡大

化成品事業(5事業)

売上高

1,009億円(62.9%)

営業利益

106億円(72.9%)

■ 医療化学品事業

■ 吸入麻酔原薬

■電子材料事業

- 半導体プロセス高純度ガス (成膜ガス、クリーニングガス、エッチングガス)
- 回路パターン倒れ防止剤
- フォトレジスト材料

■エネルギー材料事業

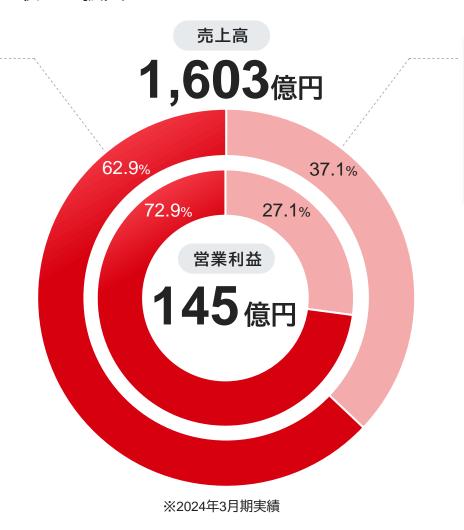
■ リチウムイオン電池用の電解液

■素材化学品事業

 HFO(Hydro Fluoro Olefin)製品、 機能材料製品

■肥料事業

■ 化成肥料、被覆肥料



ガラス事業 (2事業)

売上高

594億円(37.1%)

営業利益

39億円(27.1%)

■ ガラス事業

- 建築用ガラス
- 自動車用ガラス

■ ガラス繊維事業

- 短繊維
- 長繊維

- 01 VISION 2030
- **02 事業の概況**(2023年度セグメント実績)
- 03 各事業の2030年のありたい姿
- 04 研究開発の取組み
- 05 人的資本経営の推進
- 06 環境課題の対応
- 07 株主還元

44

吸入麻酔原薬をとおして人々の健康に貢献

77

2024年現在

- 吸入麻酔薬セボフルラン原薬を製造・販売
 - 吸入麻酔薬として30年以上にわたり販売
 - 113ヵ国以上、10億症例以上の使用実績あり

セボフルラン累計出荷推移

10億症例達成

'90 '92 '94 '96 '98 '00 '02 '04 '06 '08 '10 '12 '14 '16**'18** '20 '22



顧客より授与された 10億症例達成記念トロフィー

- 原薬供給のリーディングカンパニーを維持
- 強靭なサプライチェーン構築による安定供給体制確立

■ 安定供給の継続

2030年に向けた取組み

最新GMPに準拠

ICH(日米欧医薬品規制調和国際会議)、WHO、EUおよび 各国のGMP(Good Manufacturing Practice) 「医薬品の製造管理及び品質管理の基準」に準拠

GMP三原則

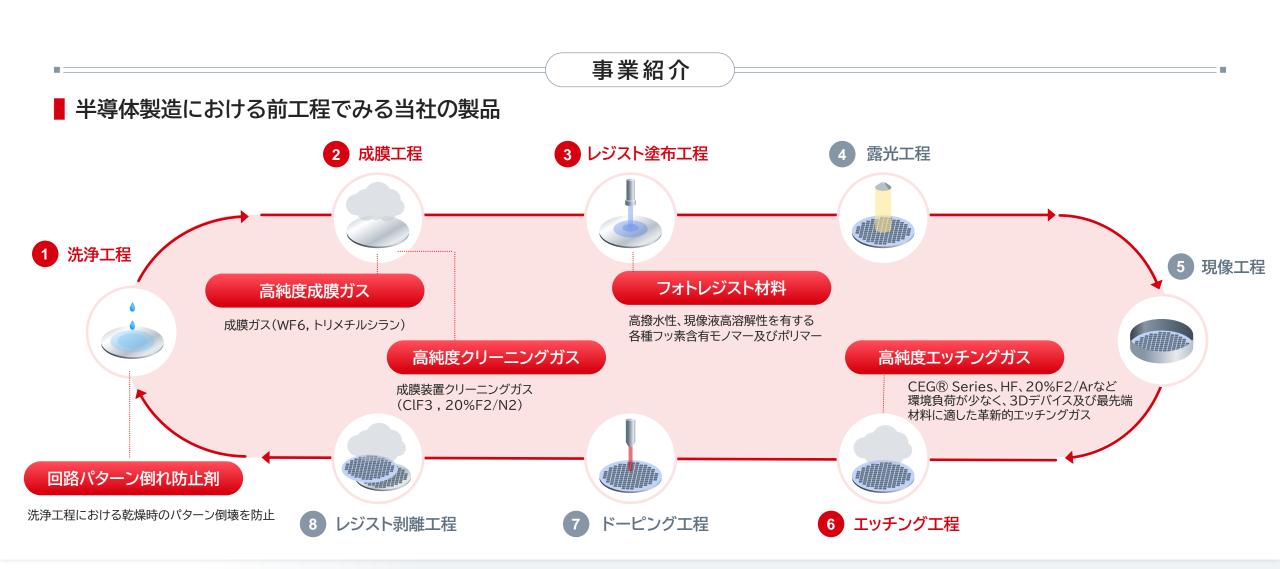
- 1. 人為的な誤りを最小限にすること
- 2. 医薬品の汚染及び品質低下を防止すること
- 3. 高い品質を保証するシステムを設計すること



- 吸入麻酔原薬供給の リーディングカンパニーの座を堅持
- 持続的な収益力を保持
- 再生医療分野へ研究開発の進化



電子材料事業では、半導体プロセス高純度ガス、レジスト材料、回路パターン倒れ防止剤を製造・販売。



44

先端半導体材料、パワー半導体領域へフォーカス

77

2024年現在

■市場環境

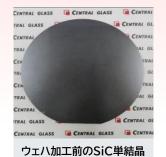
- 半導体市場は回復期へ
- 顧客のローカル化
- ニーズは低GWP*1、PFASフリー*2へ

■ 事業の状況

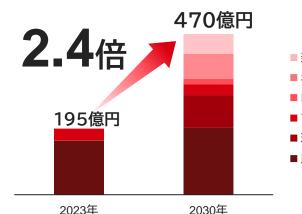
- 積極的な事業強化活動
 - 2nm世代以降のロジック用途向けに 新規エッチングガス(Gas X)を供給開始
 - 台湾に20%F2/N2工場建設
 - 電子材料リサーチセンター台湾による顧客密着型の研究開発
 - 韓国Foosung社との協業検討中
 - NEDO-GI基金助成事業でSiCウェハの量産検討への移行
 - ・ パワー半導体用接合材料の顧客サンプルワーク開始
- ※1 GWP:地球温暖化係数。低いほど地球温暖化防止に配慮できている指標となる
- ※2 PFASフリー: PFAS(特定の有機フッ素化合物)を使用しない製品・製造方法
- ※3 GHG:温室効果ガス

2030年のありたい姿

- PFASフリー・GHG **3削減に 向けたソリューションの提供
- SiCウェハの量産開始
- 売上高を現状の2.4倍へ拡大







- ■新規事業(PFASフリー関連製品等)
- ■SiC関連材料
- PFASフリー倒れ防止剤
- ■フォトレジスト材料、倒れ防止剤
- 環境適応高純度ガス(Gas X 等)
- 既存半導体プロセス高純度ガス

3 各事業の2030年のありたい姿(3)エネルギー材料事業(1/2)

エネルギー材料事業では、EVやESS用の電解液を始めとするリチウムイオン電池部材等を製造・販売。 グローバルで最適なサプライチェーンを構築

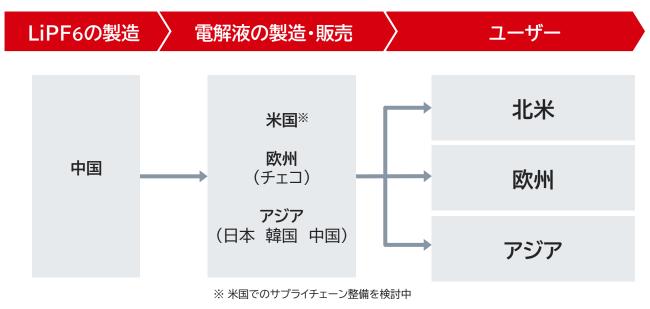
事業紹介

- 独自製法によりコスト競争力のある「電解質LiPF6」を使用する電解液の製造
- 電解液への添加によりバッテリー性能を向上させる独自開発の高性能添加剤の製造

■各拠点



■ サプライチェーン

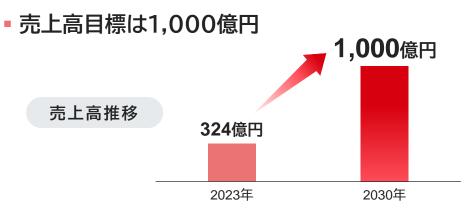


EV向け電解液事業による環境貢献



2030年のありたい姿

- 販売量を3倍(10万t)に拡大
 - 米国での販売拡大
 - インド・ASEAN地域進出
- 次世代電池部材の事業化
 - ナトリウムイオン電池関連製品
 - 高性能添加剤
 - 全固体電池関連製品



素材化学品事業では、HFO製品や機能材料製品等を製造・販売

事業紹介

■ HFO(Hydro Fluoro Olefin)製品

- 優れた環境・安全性能で、低GWPを 実現した素材
- GHGを削減し、 カーボンニュートラルの実現に貢献

航空宇宙機器 (精密洗浄剤) (C)JAXA



医療機器 (コーティング溶剤)



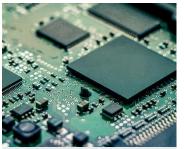
ZEB用の高性能断熱材 (断熱材用発泡剤)

機能材料製品

■ フッ素の特性(耐熱性・耐薬品性・電気特性・ 生理活性・難燃性など)を生かした機能素材



自動車用途 (燃料ホース用架橋剤など)



電子材料 (光酸発生剤原料など)



農薬原体·中間体

44

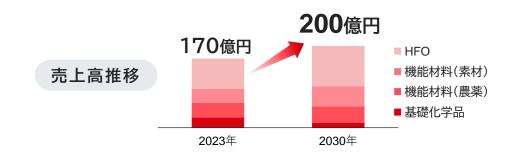
フッ素技術の深化による次世代高機能製品の拡充

77

2024年現在 ■市場環境 - HFO製品 • 建築需要依存(需要変動大) - 機能材料製品 • PFAS規制 • 新興国企業との競争激化

2030年のありたい姿

- HFO製品の拡販
 - 省エネ基準義務化ニーズの獲得(2025年に国内の全建築物が対象)
 - HFO溶剤のグローバル展開
 - 新溶剤上市(HFO溶剤補完)
- 機能材料製品の開発と売上拡大
 - PFASフリー製品など新規製品の開発推進
 - 生産体制の最適化
- 売上高目標はHFO製品の伸長を中心に200億円



肥料事業では、化成肥料及び被覆肥料を製造・販売

事業紹介

化成肥料

• 主に塩安、燐安、塩化加里を原料に用いた肥料



被覆肥料

■ 尿素の表面を被覆した肥料





環境適応被覆肥料により、農業の社会課題を解決

77

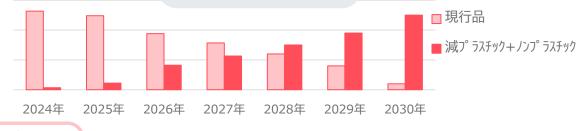
2024年現在

- 市場環境
 - 農業従事者不足の解決キーワードは「省力」
 - SDGs目標「海の豊かさを守ろう」への取組み
 - 「2030年にはプラスチックを使用した被覆肥料に頼らない 農業へ」を全農・国内肥料サプライヤーが宣言
- トピック
 - ノンプラスチック被覆肥料の開発に成功(5月23日に公表済)

2030年のありたい姿

- 社会課題を解決するノンプラスチック被覆肥料 を提供し、持続的な農業(食糧安全保障)に貢献
- 安定的な収益力を確保

被覆肥料の販売量推移



2030年に向けた取組み

ノンプラスチック 被覆肥料への 切り替え 現行

被覆肥料 植物油由来のウレタン樹脂 を使用



2024年 市場投入

減プラスチック被覆肥料 樹脂量を約10%削減



2027年 市場投入

ノンプラスチック被覆肥料 樹脂不使用



3 各事業の2030年のありたい姿 (6)ガラス事業(1/2)

くらし・環境・

エッセンシャル 製品分野

ガラス事業では、国内の建築・自動車産業をターゲットにした、安心・安全に配慮したガラス素材を製造・販売

事業紹介

建築用ガラス

エコガラス、防災安全合わせガラス、強化ガラス、 鏡製品など

エコガラス



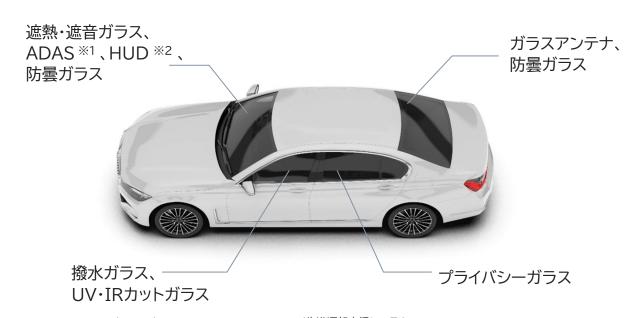
防災安全合わせガラス

防量鏡



■自動車用ガラス

フロントガラス、ドアガラス、リアガラス等



※1 ADAS : Advanced Driver-Assistance Systems (先進運転支援システム)

※2 HUD: Head-up Display

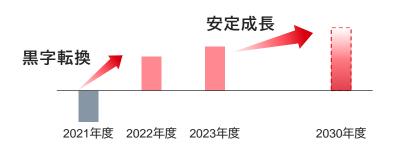


安定した収益貢献に注力



- 事業の状況
 - 「構造改善」「事業再編」で長期低迷していた損益を黒字に転換

営業損益推移



2030年のありたい姿

- 安定した収益貢献
- 安全・安心、快適性を満足し、環境にやさしい製品の提供



次世代HUD

2030年に向けた取組み

国内中心に事業を推進

- 成長のための各種取組みを実行
- 市場が求める製品、環境貢献製品(エコガラス)の開発・販売
- スペシャリティ製品の開発へ挑戦
- カーボンニュートラルへ向けた施策を展開
- デジタル化による業務改革推進

ガラス繊維事業では、ガラスが持つ耐熱性、不燃性、耐久性と繊維が持つ柔軟性を兼ね備え、 さまざまな用途で使用されるガラス繊維を製造・販売

事業紹介

▋ グラスファイバー(長繊維)

- 複合材料の補強材
- ミルドファイバー (電子材料用途)
- ゴム補強用ガラスコード (タイミングベルト用途)



■ グラスウール(短繊維)

■ 防音断熱材料 (自動車用吸音材分野で高シェア)





(スマートフォン・PC)



タイミングベルト



ボンネット裏防音断熱材料



収益力を高め事業価値向上



2024年現在

長繊維事業

- 樹脂強化用・インフラ向け等の汎用製品は減速、停滞
- ゴム補強用ガラスコードは、自動車・半導体製造装置などの ゴムベルト需要を着実に獲得

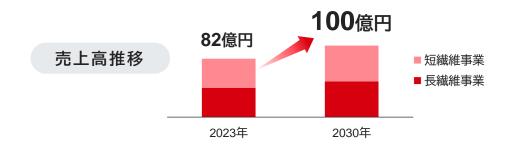
短繊維事業

- 自動車生産の回復に伴い吸音材需要は堅調
- エネルギーコスト上昇へ対応



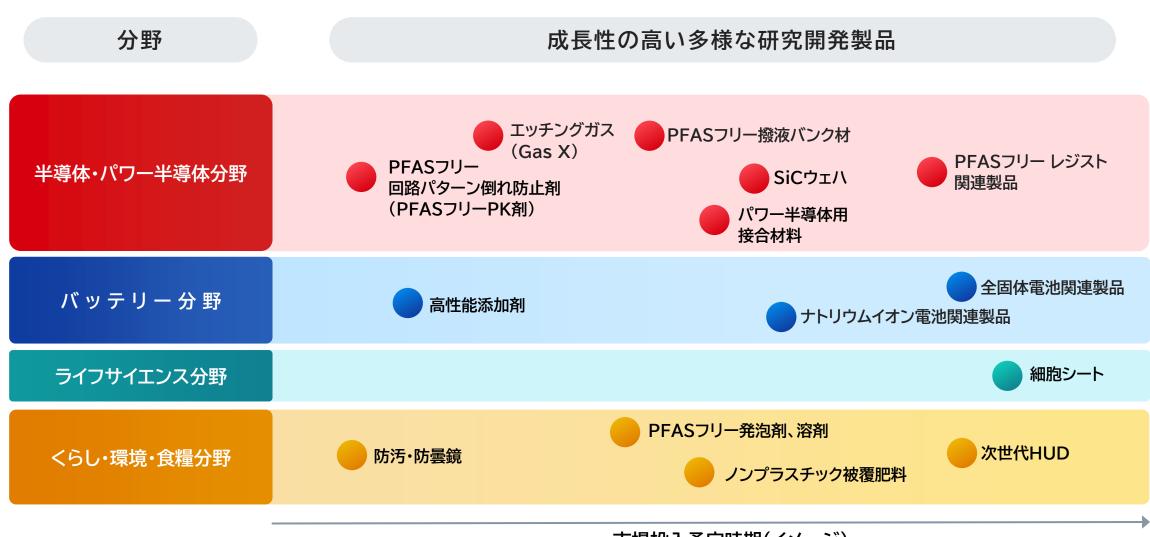
2030年のありたい姿

- 収益力倍増
 - 長繊維:高付加価値製品の比率向上
 - 短繊維:新規用途開拓
- 原料から製造まで、
 - 一貫して環境に配慮した体制の構築
 - 燃料転換によるCO2等排出量削減
 - リサイクル強化
 - 設備自動化、DX推進
- 売上高目標は100億円



- **VISION 2030**
- 事業の概況(2023年度セグメント実績)
- 各事業の2030年のありたい姿
- 研究開発の取組み 04
- 人的資本経営の推進
- 環境課題の対応
- デジタル活用の推進
- 株主還元

4 研究開発の取組み (1)主な研究開発製品



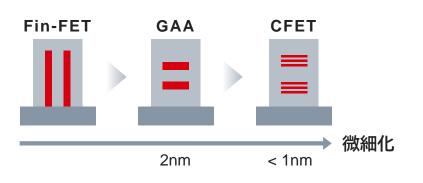
市場投入予定時期(イメージ)

最先端の半導体製造にも対応できるエッチングガス(2nm世代以降)を開発

次世代エッチング材料に必要な要素

- エッチング精度の向上(加工したい材料のみを選択的に除去)
- エッチング工程のスループット(処理速度)向上
- 低GWP、PFASフリー材料
- 半導体の微細化・集積化に対応したトランジスタ(GAA、CFET)を ターゲットにした材料

最先端半導体のトランジスタ構造の変化

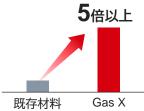


次世代エッチング材料(Gas X)の開発

■ 開発体制

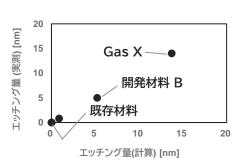
- 迅速な評価体制を敷き、開発材料を 自社装置で評価
- 既存材料と比較して、エッチング精度 は**5倍以上向上**



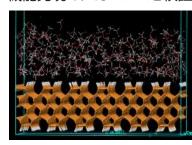


■ 高度なシミュレーション技術

■ 材料性能を予測し、開発を効率化



反応モデルを推測し、 機能発現のメカニズムを検証



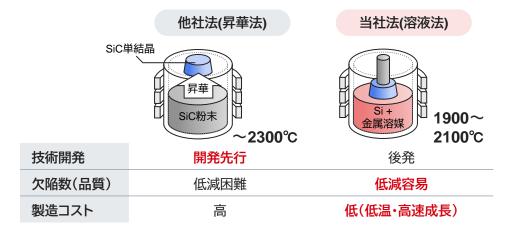
半導体・ パワー半導体分野

4 研究開発の取組み (2)研究開発トピックス②SiCウェハ

新規製造技術である「溶液法」を確立して、パワー半導体向けSiCウェハ事業へ参入

当社製造技術(溶液法)の特長

■ 他社製造法と比較し、低欠陥で低コスト



■ 溶液法6インチ 試作結晶





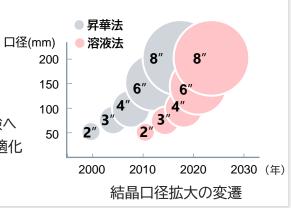
研究開発の方針・進捗状況

■研究開発方針

溶液法独自技術の深化高品質と低コストの両立
・大口径化技術(8インチ)計算科学を活用した
量産技術開発機械学習による最適条件判定
・工程自動化溶液法SiCウェハの
デバイス実証溶液法SiCの規格標準化
・NEDO-GI基金の活用

■進捗状況

- 急速な結晶口径拡大の進展
- 低欠陥(高品質)を実証
- 溶液法ウェハのデバイス実証試験へ
- 機械学習を活用した製造工程最適化
- NEDO-GI基金採択



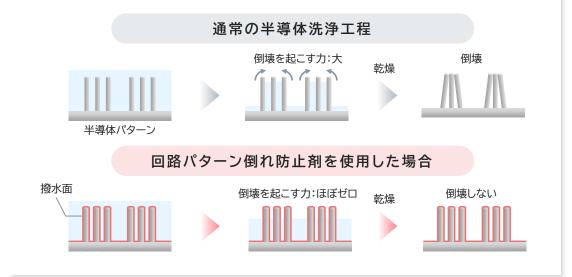
4 研究開発の取組み (2)研究開発トピックス③回路パターン倒れ防止剤

半導体・ パワー半導体分野

半導体ウェハ洗浄工程における画期的な回路パターン倒れ防止剤(PK剤)を開発し、多くのロジック・メモリーメーカーが採用 最先端半導体向けPFASフリーPK剤の開発推進

回路パターン倒れ防止剤の特長

- 当社が培ってきた化学とガラスの融合技術 により開発
- 半導体材料に必要な超高純度化技術(化学)と、ガラス表面の 撥水処理技術を融合して、乾燥工程での回路パターン倒壊を 防ぐ



研究開発の方針・進捗状況

■研究開発方針

- 最先端の研究機関や顧客との連携で新たなPK剤を見出す
 - 高性能化:超微細構造、3D構造
 - 多用途化:異種基板材質

■連携体制



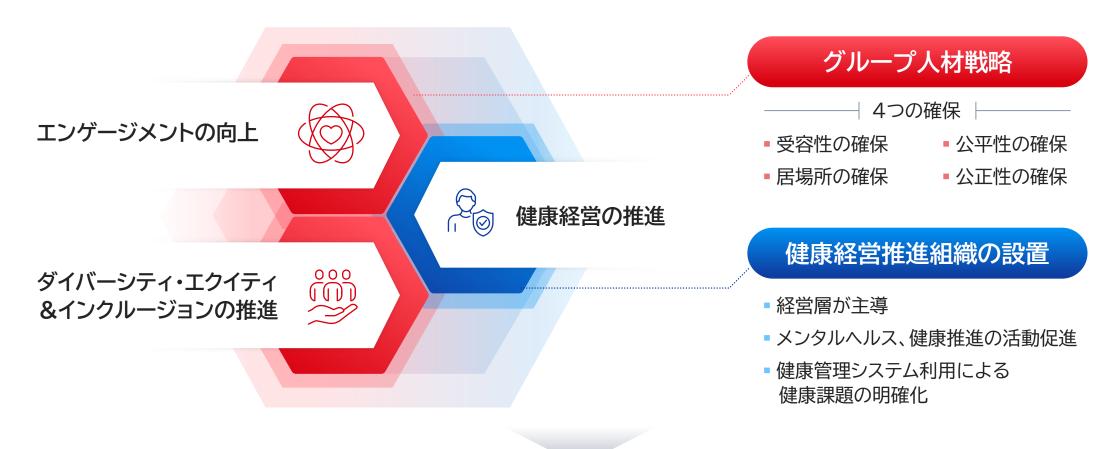
■進捗状況

■ 現行製品と同等性能を有するPFASフリー製品を開発

- **VISION 2030**
- 事業の概況(2023年度セグメント実績)
- 各事業の2030年のありたい姿
- 研究開発の取組み
- 人的資本経営の推進 05
- 環境課題の対応
- 株主還元

5 人的資本経営の推進

3つの観点から当社の人材を支え、中長期的な企業価値向上を目指す

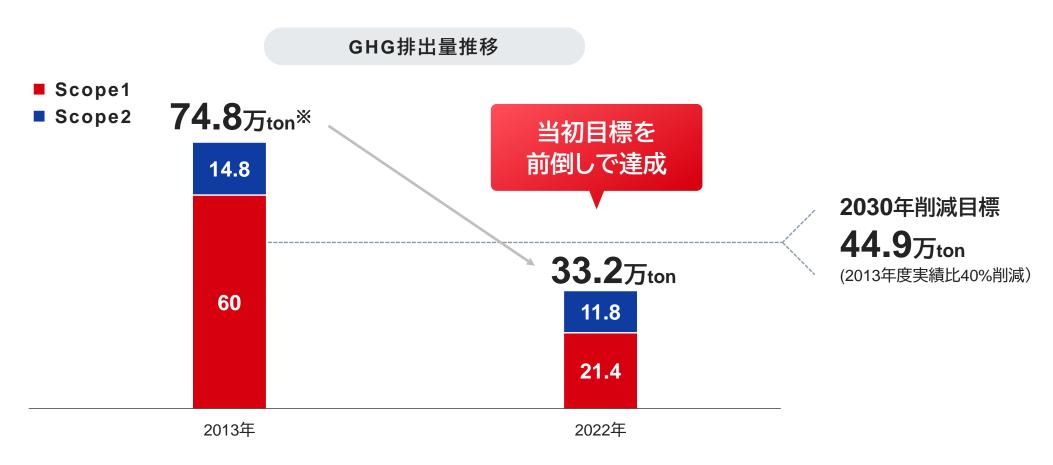


ものづくりを支える「ひと」の活躍を支え、価値を高めつづける人的資本経営を推進

- **VISION 2030**
- 事業の概況(2023年度セグメント実績)
- 各事業の2030年のありたい姿
- 研究開発の取組み
- 人的資本経営の推進
- 環境課題の対応 06
- 株主還元

6 環境課題の対応(1)カーボンニュートラルに向けた取組み

2030年度までのGHG排出量マイルストーン削減目標を国内ガラス事業の構造改善により前倒しで達成。 2035年度の削減目標を策定中



※構造調整後基準年排出量(譲渡した欧米自動車ガラス事業等の基準年におけるGHG排出を控除した排出量)

6 環境課題の対応(2)CDPスコア

環境における取組みを評価する国際的な非営利組織であるCDPより、「気候変動」および「水セキュリティ」の分野でともに 「B-」の評価を獲得

CDPとは

概要

- 2000年に英国で設立
- 環境における取組みを評価する国際的な非営利組織

評価方法

- 136兆米ドルを超える資産を保有する740を超える投資家 と協働
- 企業や自治体に対して、事業戦略や温室効果ガス排出量、取 水・排水の管理などに関する質問を提示
- 独自のスコアリング基準を用いて 8段階(A、A-、B、B-、C、C-、D、D-)のスコアを付与

当社の評価

■ 2023年度の評価の要因

環境における具体的な取組み目標を設定し、GHG排出量、 水使用量等を削減するための什組みを整備したため

■今後の取組み

環境分野において、多様なステークホルダーの要望に一貫 性のある方法で、透明性を持って対応し、環境負荷低減へ の取組みを推進



- **VISION 2030**
- 事業の概況(2023年度セグメント実績)
- 各事業の2030年のありたい姿
- 研究開発の取組み
- 人的資本経営の推進
- 環境課題の対応
- 株主還元 07

7 株主還元

現中期経営計画期間(~2025年3月期)は、総還元性向30%以上、DOE3.6%を維持。 次期中期経営計画期間に拡充を検討。



^{※ 2017}年10月1日に株式5株を1株に併合したため、それ以前の配当額は併合を考慮した金額に修正して表示

^{※ 2017}年月3月期は、1株あたり5円の記念配当を実施